俳諧一茶集

伊地知文庫
文庫20
355
4

俳諧一葉集附合之部 三

古学庵佛兮 編
幻窓湖中
坎窩久臧 校

元禄二己巳

蒟蒻にけふハ売かつ若菜かな　翁
吹ほけゝてし春の雪花　嵐雪
物ゝ鴨帰りぬ野もさハ立てゝ　ゝ
七糶山をむこてゝ月　翁
町造り粟の延ゝ揃ちゝけゝ　ゝ
貧かゝ傍くあゝ事の血　雪

伊地知氏害册

切まとも志ゝまいらせ追之出
土の餅つく神事おこなひ
生篠手燈付らるゝ雨しる宝
り堂さ餅つの松ゝきりすけ
去月乳塔分ち食をつゝむ宝
おこなひ月をよこう眼鏡
舌根手念仏を修ふ屋上衣
小珠八稲の中にはりもち
杖をかせ法上多ゝ
勝行不伏や勝杖の月
袁ちり塔粉ゝうゝ亂加
頂冷かゝ物のゝ一き

多の長さ弟子まを尺法まを
りりみのうつ桶の名を取
柴垣の古ゝ杖八破まゝう
法ゝよんゝ杖八くろ
手ゝ多のゝしを秋の風
髮きる青ゝ月ゝのめく
長門ゝ西の新ゝ松四一
粥ゝ玉ゝの名ゝ仏ゝ
山ゝ玉の塔名仏杖樹
ゝ筋をくノ貴ゝ
やゝきん大江の岸八八行
削面ゝ杖岩の墓

[illegible]

[illegible]　菊

[illegible]　重

[illegible]　菊

[illegible]　重

[illegible]　菊

[illegible]　賈良

[illegible]　嗟山

[illegible]　此筋

[illegible]　良

[illegible]　菊

[illegible]　筋

[illegible]　山

[illegible]　菊

[illegible]　良

[illegible]　山

[illegible]　筋

[illegible]　良

[illegible]　菊

[illegible]　蘭茶

[illegible]　山

[illegible]　良

[illegible]　茶

[illegible]れ鳥鍋　菊良
[illegible]あちの[illegible]　山
[illegible]の[illegible]を[illegible]て
[illegible]火[illegible]吹　[illegible]　菊
[illegible]を[illegible]時　肉取　葉
[illegible]は[illegible]　山
[illegible]　良
[illegible]の鍋
[illegible]木[illegible]　[illegible]の小豆　小鍋
[illegible]　[illegible]　菊
[illegible]時の百合[illegible]　葉
[illegible]の[illegible]の肉　竜竹
[illegible]の[illegible]て　山

[illegible]の酒肴の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]　菊良
[illegible]人の[illegible]を[illegible]　葉
[illegible]は朝の[illegible]焼　山
[illegible]　鍋
一門の[illegible]　竹
[illegible]

[illegible]会激翠桃李[illegible]
[illegible]人を[illegible]　菊
[illegible]いちを[illegible]の葉　翠桃
[illegible]市の[illegible]を[illegible]　曽良
[illegible]の中[illegible]川[illegible]の肉　菊

煙りの中をくゞりての小きりしれ　枇
萩の葉結の結縄を待　良
ウ　まのいへハ小室手鳥を押入る　輪（翊）
みられさ数ふ清しき楽会　菊
きすまて火を焚く白の家さかし　枇
めでたき人こゝに二十六の里　良
杉の梢に流をみせてまとんれ　輪
参りて通るは達者はしきり　枇
簾あけて格のしき小路の炭俵　良
継ぎ方にも尼しらの絶　枇
明の月を忘れて出るまかりの絶　菊
ゑかしとも消ん梅のいつまでも

孫縄を叶ひく花の頃かうし　良
杉の木陰にのる塚の小寺　枇
二　さ傘さすまで行すうして表の路　輪
衣を抱く云ふ本の中　里（樹）
酒飲ハ爺が杉の木を佛と　菊
持つ人帰る咀の松破　良
首武者の聖地を云ふ学校　枇
ゑてとしとみゆるしの言　輪
日中が降つて須ぞあかう　里
一釜かするみ燃の葦花　良
乞食とハしりて浮世の物語り　菊
洞の地気を気るさく吹　枇

等の葉ハ粒の
あるを陳て　法人　柴ゝ
ふるを又新りをあむ石の上　菊里
屋仕ゝきつゝ只のすゝ舟　菊
夏すちと時れつゝ杜宇　梅良
かゝ仕ゝの夫と枝る九葉　梅
花の名残をめゝ跡を　桃雪
物さくしいめゝ失惟を　桃葉

一葉

ゝゝを又新りをあむ石の上　菊
米ゝなちゝに流のきゝ浪　二寸
雄のゝ社をこゝゝ　曾良

おくの細道を物手ゝ
ゝゝ仕ゝ師を花と菊を
除生ゝれゝる主のつこゝ　翅輪　秋鶴　桃里

四月十二日

風流の供ハ初おくの田植歌　菊
袁参ゝるを打て泊まゝけ　等躬
水せゝ記て屋敷の石や主ゝん　曾良
笠ゝ子　躾の声ゝいうすゝ　菊
一葉ゝ　ゝ月ゝ等ゝ　川柳
屋上屋根ふくゝ村ゝ　秋ゝ　野良
蛛の女ゝ上縁ゝ仏ゝ等を酌て　菊

女房たちのしやしほむ物　船良
あり所ハ梅もいまの入めりむ
樣の小枝手をとりて　菊
うゝみてハ嫁ら島の名さ惜し　船
雲深　山やの白髮おさうけ　良
酒もうハ軍きこゝる雪こゝ未こ　菊
秋を志ゝ分と物よゝし信　船
文ゝ歌の聖つゝ破ゝ康の角　良
島のおかの仏ふきゝ月　菊
いろくの物をもゝ義ゝ為て　船
世一き貫をけふく糸越　良
山ゝ社尾ゝをく手やむゝみゝん　菊

芹　酒　さゝう　清ゝつめしむ　船
蕨　いく雲ゝ一筋の清あゝて　良
村の〳〵武士の名義ゝ為　菊
華ゝゝぬゝの名色の春冷　船
宮ゝ百姓しゝむ名ゝつし　良
ゝ枕ゝいゝむ財ゝさし入て　菊
何中ゝ事れたゝぬ七夕　船
住ゝ為御の杉れ身を尺よ　良
ゝき茅ゝむ白髮の数　菊
切櫻枝ゝゝにゝ強し　船
古山鶴の春ゝさゝゝ　良
保一ゝ和酒やゝをゝくゝゝよ　菊

数生石孔ふくるゝ　彩良

花をきてすゝ枝ひをまをかく　菊

酒のまゝひのさもゝ吉風

ふ十の恨ゝ人の正月ゝ　彩

屋敷すゝ少細ゝふゝ　良

楽門有伸の即八寿の本ゝ花を

むすゝ宝　菊

かゝ紅ゝや月を抜花を料の栗

すれゝ巻ゝ　栗爾

きゝ爾す山の野ゝ花八ゝ　等彩

時伸ゝすゝる石の捕ゝ　曾良

把ゝ吉屋ゝ月の巻ゝ　峯雲

秋ゝ月ゝ色ゝ　次竿

梓弓矢の羽ゝ花ゝ　末葉

新巻ゝ　暁の雪　菊

杉皆角ゝ吹ゝ　富

風の遠恨ゝ　彩

峯入八ゝ　良

ゝれてゝ　雪

ゝ新ゝ　竿

月のゝ　葉

猪ゝ　彩

笠の鎗ゝ　富

梅ちるや秋葉やよし桜ハ切の用　菊良

かなしさ苦しさ孤枕　あしし　蕉

ゆくとしにまをとしまるるの寿　彩

ゆるされぬ道数をくき　竿

まさ鶴我はもうを美しく　菊

かくしこ孫の孫や寿を　富

うもねの寿さくらくに法師の年　雪

朴を　うるる　市れ　酒　酔　良

けり作り三社の祝をいくもて　蕉

社う合ましハ的ちのうる　彩

働ちふる高　鶴の鶴をうし　富

四五日　身を尺うる海士の家

ものうかひ里の朽　梅

角のう　陀をまつをぬ客　良

冠をく岩す波のうる法ちれ　菊

うつうつくく文をまを　彩

老されハ寿うよ人みく小人　蕉

寿ふせをはし　忍ふ蔵の花　富

入ハ四門千法の花の正　良

ひをとよむる道生ゆ　雪

お長の秋船　彼帆　風流

とめてうの風の蓋　菊

菊花孤松を植えて花を折りて
客を送るのくすり　虹の如き
ちぢれる毛を市にうれば
樗けらる組父うちをとらせ給へ
年ごろうちみたく家をさるめる
梅のさかりみやこしき紙瓶を
すゝれをゆきて酒すゝしてう
三歩大ゝ年ゝ古への思ひ入れて
波のうきく高の墓　茶
色ゝぬ松ハ野のもとに影うつ
萩ふみもゝけらるみのうちの書

孤松　曾良
柳風　牧葉
菊　除
良　如柳
木端　風
松　菊

り蒲ゝ身を焼の小社ゝ
病ひのゝ人むと寄ゝくし
武蔵ハ花のもとをまをの
ものゝ庭ハ　石
ゝゝ水を挽きる者の水
絵屏極ゝ小ゝ立ゝひく
牡丹の寒風ものゝ
光信のいとゝ小屋ゝ
武士ゝ入来の門
ゝの つゝ花を作る松くの京
羽織ゝつむ葦　物の角

松　蒲
菊　良
除　蒲
風　柳
松　菊
良　蒲
除

秋天に杉苔かくれん苔の色　松
うしひすきを茅渡の谷組　菊
雫紙を出す水を見るゝ人　風
出塚の紙を尺ゆるかゝ人　端
まゝ紙沸の者と塚手にて　菊
よゝ紙て定ゆ紙屋の白法　陳
浮しし石のうゝ戸の崩れう　風
ゝまる山も雨の清紙し　松
学のもを方ゝ細長て　端
長ゝ松塚ふ船　良

清ゝ紙雨の松きゝの松きゝ樊　清風
屋ゝを尾上の清を回ゝうけて　貫良
夕月ゝし二の尾の紙　赤莫
桶長人うけ尺ゝ紙笠の長　風
紙の一紙赤ゝいゝしのゝ　風流
ゝすゝ紙ゝ石ゝ紙清ゝ　莫
山八重ゝ紙ゝ苔ゝ無を紙　菊
ゝ門ゝ長ゝ長を紙ゝ紙ゝを　陳
秋田酒田の浪ゝゝゝゝ　良
ゝゝ雨の小ゝゝゝゝれし　菊
赤ゝゝ虫の雷ゝ　風

良
英
風
菊
良
英
風
菊
良
英
風
菊

清風

起所の庵ものいとこの小家に
物ものこのうら夕ゆふの寒
り翠いとく紫の帽のみくのうん　菊
石ものこのうつくしの舟　素英
寒清水青花清らの郭もとも　置良
大内宮紫て八紫をとうみ蛇　菊
叭高ものを宮さきもや杉つん　風
雷ゆめの白八杉の稀とも　良
ものうくき地を人屋し　英
寒のうくき地を人屋し　菊
いさやうくき美如とおもふ雲行て　風
　　英

紅粉白粉の市のうるひ　菊
寒白の八秋の手稀のさびし　風
碑の庵ものを象潟の舟　良
運ものうの松の中ものきうん　菊
米の稀うる薪酒千千　英
貧侍の市のうる　菊
寒すの急ものうる　風
中り侍と八宮ものの　英
苔のうる入さ　良
果のの中の稀　風
今そうるの安ものを　菊
二の宮八八重の几帳の中て　良

[illegible] 月の十五夜　英
[illegible] 秋の[illegible]千鳥　菊
[illegible] 三の　樟の木　風
つくづくと世さうに[illegible]て　英
父の[illegible]を[illegible]ひつる　良
[illegible]の[illegible]の[illegible]　風
[illegible]上る石上　菊
[illegible]の[illegible]れ　良
[illegible]の[illegible]　英
[illegible]の[illegible]　菊
[illegible]の[illegible]　風
[illegible]　良

[illegible]の鉾わたりまの山寺　菊

一葉亭無名

[illegible]川[illegible]
[illegible]　一葉
[illegible]　貫良
[illegible]
[illegible]　川水
[illegible]　栄
[illegible]　菊
[illegible]　水
[illegible]　良
[illegible]　菊

芋とはいひながら大きものなれ　栄良
葉の色とはうらはおもてかはらぬ
瓜紅くつる　双六の　石水
色物さびしく丸く炊のこゝろ入て　栄
炉ふ人手　岩の秋　うを　菊
多き井手の月てり　ゑなん　水
破ゝてゝゝてゝてゝてゝてゝ　良
花の姿を織す　芝刈ら　栄
泥梨いとゝ　山ゝけの塔　水
稚多井の泉の水の寄宿て　菊
刀　持ま　る甲斐の一　紀　良
薄垣人も通ぬ軒ふし　水

物のゝくゝまひ　削る松の木　栄
星あかり　契八百髪　かゝてゝ　良
集手　秋　女の色をもむ月　菊
高筒手　芋　相のしめりを結　栄
紫ゝ手　ゝ　ゝめくゝ　高ゝ　水
合歓吹本　のけを屋のかけ　菊
ゝしゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　良
古以の友　ゝと　ゝ　ゝ　水
ゝ紫　海　ゝ　ゝ　ゝ　栄
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　良
蝶　掃　ゝ　ゝ　ゝ　菊
元人を　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　栄

やまと人　烏のすまふ入れば　水巷

ひらひらと翌とこそ鳴の色　良

山田の稔をいとゝ面白

羽黒山登詠関梨のお宮奇特を

有うとやまをとめてすぐれたる

信仰と人の祈願　外　嶽丸

川舟の綱を宮もし引しを　青良

鶯の花ゆゝしき三方有　狗雪

淀の水天をうつる松のうれ　妹妙

かも南こそ結うちうち　梨水

鶴ゝてハ昔のかけ宮絵ゝ　空

百里は来ると本ゝの生追　菊

山ゝ尽ゝ少ゝ堆の紅ゝ　丸

谷　村すゝむ　弁木の森　良

高よみの紅ゝ　空

豆ゝゝ　歌ハ何と　信　鬼

古郷不ゝ寄ゝ　丸

高ゝ　之　枝ゝ　結後蔦　菊

月尺ゝ　引　紅ゝ　の蔵　水

数ゝ　ふゝ　ゝ　ゝ　良

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　菊

的場の事ゝ　咲ゝ　丸

ゝを　ゝ　ゝ　空

百里　菊

汲ていとゝく醒る井の水　丸
是成のこゝろさすがに寒　圓入
敲の門手二取霜をはらひ　良
かゝる清き雪を砕て　丸
蕎麦屋の山水のなり　菊
くもの空八橋の枯葉の上にくゝ　水
汲の水をくゝる釣瓶　丸
龍の口を拾ひ　重
藻屋に寄る取すゝの法　入
月山の風の風に骨を志む　良
強法の火鉢より稿蕎の煙　水
ちゝのひの梅こゝ八月しの心　丸

つゝる神とゝくに藪の色　丸
ぬす人を法をゝ妹ゝ者を法て　菊
行ゝ尽ぬ冬ゝ〳〵の神　良
鶴のさゝゝ流ゝ花の波　會堂
年ゝ行くゝ春ゝ　水

野ゝ重行亭

孤ゝ山を初の初茶ゝ　菊
蛙ゝ年ゝ行ゝ野戸　重行
絡織の言ゝ検ゝ　貴良
閑ゝ生ゝ末の三ゝ角　呂丸
春ゝ成ゝ成ゝ梨の花　丸

張て小埼と仕し
山の端に消うせし帆船
蘇子の里ハ
栗稗を少女の齋る
うのちうに紙行る石の戸
赤松を母の紙屋根
崖に張て小田の苅和
此秋も門の板ぶきつもる
敷ものに成て
きぬしハ秋ものく同しものの
御の女ハ姫と物
賀入の家をうるおせる

菊
九
良
菊
け
良
九
け
菊
九
良
け

もしの廊ハ桐に焼ける
金閣のまも一ぬ
京良の秋に豆数をめる
此ものに先ハれや蒼物て
霜老の
そうけさハ月を注そ紅葉
乗して友を待をく
ものの花を陪の小松京
紙生の如しを踏つゝ
条城の秋とを見つん
うけて家けふをしも
ものとつ月を郷のものとく

良
け
九
菊
九
け
菊
良

泉涌寺陸奥の秋風　菊丸
紅葉の頃よりそなたのためし
山ちかく化る雲の暮ぬ　良
尼衣男ぞ思ひ出らるる　行
泣きかつむ京の紅葉　丸
花の時はやとやいつ咲ぬ　菊
散ぬ雲もしまの山ぶき　良

酒田不玉真鶴酒江上
酒のうしろ山や吹酒のうけて久保し　菊
酒杯かつ孤ぞ酒むれ酒　不玉
月もいと関ぞかしん酒おもく　曾良

民のかまどのうつる秋風　菊
さびしさを酒のうにやすらるる柏　玉
酒のまぶ玉ぞ鶴の羽衣の毛　良
うつる鶴の羽衣の羽衣の羽衣　菊
火を焚うけて白髪ぬれ酒　玉
酒屋ハうちもふるやすきうせぬ　良
松ぬ　おくる武隈の去年　菊
苔敷松のしき立ちひて　玉
ちまたの秋千ぶかひて　良
おぼしてゆくふる家と思ふん　菊
此寺の末もみよしのの子入　玉
釣殿よ薬師寺の塔の苔　良

ふるさいのちと爲の色金　菊
時〻〻花一本あれと葉黄おて　玉
鶯の旭社宗の霜雪の月　良
ものいくハ本魂よひくきの風　菊
すくるとハ流るきゆつ山姫　玉
強力鶯つ戸時ふる垂仕ひ　良
枝を初さ却る塚の荒芝　玉
秋雪ハ〻ふ雪を鶯〻雨　菊
えひう云ことぬひ〻そ江　良
ゆるこめん戸を佳と生夏て　玉
月さく濃ま　菊
海雲ハ吉蔦う裏うかく〻入　良

小紋縞とおくる戒の海　玉
桑うほの母子似ふまゆうく　菊
貧子ふ河〻ぬ家ハ〻れも　良
高氏の京指縞〻ら古今集　玉
花〻射きふ竹の海茅　菊
黄〻の巣を三紙つひ　良
蚕種〻ふまと第ふる　玉
錦木を仕て古ふを尺ん　菊
ふる〻ふ文き　良

城指直に清〻
文自やら〻考の松ま似て　菊

夢をのこす桐の一葉　左衆
新蕎麦を食しくるけて　曾良
海士の小舟をたを上る後　眠路
新酒すむを山を尺をうつ　此竹
松の木ちらす時雨の音　布葉
夕あらし庭の落葉　石雪
鐘とおく聞かの　孤峰
ぞひうけぬ笑を体をうら　桑
きぬしの情を起をとしく　良
数しの根の冬ぶ拾つをて　義年
後をうつる秦をひ風　菊
ゆくとも新年ハ身のをくをく　桑

乗川くを水のみくさら　也
雑ちまくをしく風　路
ふつさ二人の山本の花　桑
前の冷をまをしくををかふ　手
樽の羽をむ埴焼のうけ　也
をを雪を契利吹ら法をを　菊
ふをいろしを人しのみ　良

星をを宵の子弱をを止をを　石雪
いろををしを初荷の稲　曾良
瀑を頭を竹をく布掛く　菊

此五十句あり

秋風おくる父ら旅ちの　菊
加の実を除て捨ぶし　雪
殆て後ゝ玉北古　雪　衣
拝植て小枝手むの実を拾し　更也
角のゆうゝ北ハ長つまゝ　良
扇をひゝ手まゝ初りき雪の上　菊
一ゝ鳥人ゝ飛て　雪
童山や徐て小砂を拾ふゝむ　右
科の却りを高義の花　也
憂てゝの百ゝ魚の実を踏く　菊
人ゝゝ手の実ゆ　良

松柏ゆ枯し蔵北ゝ手し　雪
ゝを紛ゝきゝゝ枝の床　菊
時ゆ赤の科を明ふ硯ゝ　右
世昔の月山ゝ山ゝ　也
捨投むくゝむの頃北秋ゝく　菊
志ゝ枝し家北法ゝ生新頃　雪
塔濱の弧村のゝゝ雪頃ふ　也
清ゝのゝゝ雪ゝ清しき　右
かゝふゝし地義の縁ゝ石のゝて　良
強ゝゝゝふゝ里ゝ　雪
仙法を云ゝて志の演ゝ入　菊
多本を云ゝく板の義生　良

きぬぎぬや少牡鹿萩芒　菊

雁を人初て聞うつす月　梭墻

弾弓きさらぎ秋の鼓ゆむ　小枝

よしの弾戸を明ぬ夕くれ　谷ト

きぬぎぬやこ弾ゆのうもすき深　蹇生

ゆうしにのうし一も紅　志拾

法あふき残年ゆけるを拾い　夕市

西手洲崎の岩をうしるふ　致益

うたゝう松ゝ火八重し　釈生

乞食起しさ物ゆをゆは　黄良

蟋のゆむてハ笠手義之ゝ　枝

菊

菊をもむ法やゝ後のな　ト枝

夕雨のすゑ乾手今ゝ　嬉枝

ゆをほ光つ雁ゆ　観拙

侍のゆふくもつゆ　市笠

そゝ船翠ゝ未の世ゝ　生

洞手さま月やし蘆の光ゆて　良拙

投ゝ栗をしゝ時ふ　枝

鈴蟲も裡の市かゝ流

事　ゆうけゝ清ゝ遠

梯ゝ動手ゝを弾ゝ之

めゝむ法ゝ手流ふ遠来

二　寅　検校梯手人之ゝ

かしらとうりに性あるなり
一樹千年ふれるあむさの月　市翁
秋の雲をしく系屑のいろ　嬬生
富あるのうこの八つ納の良浦く
美千よりをしるる出るしく尺む
ちまれ子主のふれられ種ずきに
雲こうさしひし沸石の板妻
改花ちもあらもしなつ
宗祇のきれ仕方ゆいき　良嬬
閑ゆし五の良ハきれまう
あるさしハしのけとのきけも　釈卜
大うさハ打るるまけいるく　翁枝

流ちるゆる尺ゆる町のきる聖　翁
風送る秋ゆて頃やれ　卜
雪高もいふ女ともいふ　市
古太文字のるてもあるき　嬬
あけの情子罰やはるむ　翁
きちるもかさく彩を掻写し　釈
花千雪て雪を友　良
雪の雪も筋よむ雪ゆる　枝
うあく　しやをたに山

かれ流ちる
跡果雪ちて料理見広苔る　翁

みーとのさまくるまの夕日影　一泉
月よりもゆく秋の末こそ次くすき　左任
すき百さしひーき村れ生垣ノ松
孤猿洞の門をあるくて椿の香　竹玄
小桶の清水七つよりひとくるくしも梗の恩　詩子
うらさぶーやるあのうの系　雲口
ゆみ野ふ高きうらんやーを　乙州
もーー清をハ山やうもむ月　如柳
肌さふく咲しうーうーうーる　北枝
松のうを木千干あ　稲　曾良
ふるの茶ハうの如中と縁祖し　流志
泉

きーめ沙ゆるふれさうひめ　菊
糸うーて霜写ゆ糸ゆ之　枝
ゆーしるゆくおを山のやや　口
写のう社茶もつ秋之　浪生
畑　歩　もーーていく表　良

七月廿六日観生亭こ
ゆ発てゆくくるやや白の義　菊
笠かくれて月ふく家　観生
月尺こし海もゆすゆけく　曾良
干ぬかくひをとうるし　北枝
松尾千屋霜のかい笑ぬ　生

書かくとて一時筆
りと詠ける海辺の嘴に出ある　枝
二戸に持をて勢も酒樽　良
もげ〳〵雨の古ふ濯もちきれら　菊
その地蔵に枕かうとや　生
映張る鶏の声を時を　良
高をとすまもる宝壺の船　枝
船のきぬ女のかちしをうう　生
み　めうきに結る糸うる　菊
よきうる木に咲むす様の　枝
うのみあり上る塔のあり　良
寺に伝ハ行の枝を只四本　菊

新あかきゆる所のあさうい　生
粉くすうる宝の嘴めあ　良
もうしを色の自の沖陵　枝
黄うる花に宋鶏里ちる　生
新　実　菊をあつねう　菊
二樽の羽や赤ふ殺ちん　枝
くの上ら扱るさうに　良
ひくき赤木魚に心角ある　菊
月　後して史をすみ渡る月　生
その年とぬる人の名ハ鶏る　良
ちうあみくうる石の宝槌　枝
聖社ハ樽の寅生のいくうえ　生

[illegible]

一[illegible]ひとおもひうくるもの技芸の礼　枝良

はるかに[illegible]嵐の戸隠る　翁

[illegible]やも枝も枝伝ひて　良

うゑみきるに[illegible]八重さ酒の　生

入山はいとく[illegible]　良

[illegible]きしに[illegible]の[illegible]　枝

[illegible]　[illegible]　生

甲八毎はは[illegible]　翁

追剥の[illegible]を[illegible]秋の[illegible]　枝

[illegible]も[illegible]の　良

[illegible]　翁

翌[illegible]二人[illegible]　生

[illegible]　良

汗八[illegible]　枝

四九の門[illegible]不二の[illegible]　生

鶏[illegible]　翁

長生八[illegible]史の恩[illegible]　枝

[illegible]の稽[illegible]　良

[illegible]　翁

酒[illegible]　生

[illegible]人[illegible]曽の[illegible]　翁

ちうしゝ桔梗 霧の秋草 亨子
渡しを編る丘の月うけ 殷蟬
走けし侍へおぼしきえる 菊
海者に多き雲傘さして 子
ひそうそひしく大手の梅 蟬
きくやニ月のうゝ蝶の影 菊
青つる海隙 そつみし 子
秋光そ多ましとゝし 蟬
奇そつゝれて侍のゝ花 菊
提灯を海女そ鳴けむ 子
ゐる景ふゝ点ゝ山もと 蟬
巣の戸ハ納豆ゝ法師し 菊

紅葉ゝ竹梅きゝ 義 子
時義ゝ人ハニ十 みしゝぬ 蟬
よゝて舟ゝ月の川 鶴 菊
海杉ぬ芦ハもゝ 子
玄手の軍の景い白 暴 蟬
やふ入の時や送むゝ 菊
義 みぬしか 子
うつくしき 佛 蟬
はゝけゝかゝ 閑巷の仕合 菊
芸うけて手の餅 梅ゝ 子
芸ひくゝる志賀の古里 蟬
ゝゝとゝる和田の花の奏 菊

舎利を喰ふる陵の坊　子
竹ひねく割し笑の炭売　嬉
出家の早病まふる百姓　翁
郊の力田ある赤子を押拾　子
付ぬ畝の絵図ハしきし秋　嬉
良宵くれハ花鳥の飛すけ啼　翁
守の館まし着かくて花　子
十年二十年もの仕つくる御衣の袍　嬉
秋萩一葉をこしけさ里人　翁
旅の暮さいても思ひきれる妻の衣栗　子
残光の朝焚たらふ新垣　嬉

山中の温泉にて

馬かりて燕追ひゆくわかれかな　北枝
花野みだるゝ山のまがりめ　曾良
月よしと角力に袴踏ぬぎて　翁
鞘ばしりしをやがてとめけり　枝
青淵に獺の飛込む水の音　良
柴かりこかす峰の笹道　翁
霰降るひだりの山ハ菅の寺　枝
遊女四五人田舎わたらひ　良
落書に恋しき君が名も有て　翁
髪ハ剃ねど魚くハぬなり　枝
蓮の糸とるも中〳〵罪深き　良

[illegible]の[illegible]を待くるる門　菊
[illegible]の[illegible]上[illegible]かくれし　枝
雪ゆゑ[illegible]均[illegible]の[illegible]竹　良
秋風[illegible]のいとゞ[illegible]添[illegible]　菊
[illegible]き紋[illegible]待[illegible]く蕣　枝
[illegible]の[illegible]の[illegible]町[illegible]　良
[illegible]を[illegible]る[illegible]の[illegible]　菊
[illegible]や[illegible]殿[illegible]の[illegible]　枝
[illegible]の小[illegible][illegible]芋[illegible]　良
[illegible]の[illegible]の[illegible]ひ　菊
[illegible]と[illegible]く[illegible]面　枝
[illegible]小[illegible]の[illegible]　菊

非[illegible]人[illegible]る人[illegible]菊　枝
[illegible]の[illegible]　枝
[illegible]の[illegible]　菊
[illegible]の[illegible]　枝
[illegible]の[illegible]　菊
[illegible]の[illegible]　枝
[illegible]の[illegible]　菊
[illegible]の[illegible]　枝
[illegible]の[illegible]　菊
[illegible]の[illegible]　枝
[illegible]の[illegible]　菊

弦狂人と除せられぬく　挑華

九月八日小野の子の家に

一とせ聞くべき萩の花ありける由

むしの鳴く籠を籠縁の下　駱通

紙ゑもむかみ　葉多白之

あるじに　浅夜

あるじ　菊

桂本に桂本を　胃良

合のまきぬるはおりしに　多

紙後に人々とくみ　通

次々のまつ叶のまつさ　良

葉のうつもれ　破れ

ほそくよ　しくめる業　入　本因

新の　新

月見ゆるきし　の　之

さんしの見　拾る　布ふくろ　菊

地獄絵を　きさ　の　通

きぬしの屋　を　松むん　因

獄の頃　松子　和むおもうけ　歌

豆数　ひく　ゆの　里の　花　之

の業　と　仕　す　菊

ニ　きさ　ゆ　胃　タ

あ　に　る　の　星　良

蓬　子　米　歌

[illegible] 通
[illegible] 菊
[illegible] 歌
[illegible] 通
[illegible] 菊
[illegible] 夕
[illegible] 良
[illegible] 歌
[illegible] 夕
[illegible] 通

[illegible] 菊
[illegible] 夕
[illegible] 紙華

九月三日菊の歌

[illegible] 不知
[illegible] 荊口
[illegible] 菊
[illegible] 如行
[illegible] 左神
[illegible] 淺香
[illegible] 斜顔

ころもはやすき川むきの如 杉風
ほそしき人のみなくずらまさ 知
牧居の回とかさりけり匠 翁
まげよひの鐘をやよ〳〵思ひし 杉
茶よ川ぬる月のさむしろ 枳
篠えして給きくすて荒かれ 翁
網代の鮭く我市の高さ隠す 香
舟の取寄ようてかくらく 岱
上藤くちも旅のさしのみ記 知
花の香吹宮の長標ひらりて 杉
緑れ見えてをく煙の山まで 風

ちやく吹ぬるとまし宮の蘭 翁
うららうむ川宵月のとか 左柳
新たるけ古事の鶉ぞ鳴むらす 路通
室らすしと山のかきさ家里 文鳥
酒飲の麻子條子をめきつる 越人
籾柿のしくも又とくるいま 如行
足のうく撰く餞をすゝめくら 荊口
妻をし叩れてかすかりふうめ 此筋
二人ぬれあそ心や為めらむ 木因
けつり蟹子精進つますつく 残香
兎角しさ多すゝ蛙を汁られも 曽良

書物のうちの伐魚さうし抜　斜嶺
紀文一族もらのうち志ゝて　板
集めけとまれハ貝も吹きれ　菊
自宅く浜ゆゆてりみるし　与
ゆうつゝ智う青の糸　糸　に
一株千両の山の花咲き　通
拾ひうひこもむきの森みて　人
茶屋の姿ハいの矢く　因
村さう行ゆ　ゆ　おハうし　義
明きくり御の宅ハ　ろや　筋
二代上手の磬ハ　ゆ　糸
拾うれ工ゝ　ゆ　良

志ゝ作ゝうらぬ安ゝ養て　約
多義ものおゝ　ゝ大ゝ子　板
第の之中ゝ　ゝ不藥内ゝ体　与
美ゝく新生れつく物ゝ　人
尾千ゝ　ゝ青のきゝ　通
自新千具足ゝ　ゝ　菊
義ゝ物ゝ一株の義　に
絢ゝ千ゝ多ゝ　筋
遊ゝ千ゝ走ゝ　良
九絢千作ゝ　糸
物のうけ　毎ゝ　因
花のかけ　陶金屋の　約

松山子をむかへてうつる下亭　辰

いさゝ紙さし寄りの秋の玉霰　翁
折敷手さかな構への心　良品
羽箒の風やむ縁り輪をもて　梢風
居なほ撲てしわ有のさむしろ　之道
庵の秋菜のかくえゑのことさる　去芳
ウ
きりし岩る峰の閑梨　半残
鶏聲の当まおくをおもて　不
物さふらちの塒はくらしき　翁
岩まかり熨斗干ていろ海吉東　董

泣うきさけよ雨の手枕　風
舞残ちの山し浮かみて　跡
そうなもとしてや為きかう　芳
子の声侍宰まはとりしに　翁
肩入る不二のいとく起　風
秋風のすられ子く八雲むさ　不
箒手よりける蕣の山崔　藍
二
画一行八雲子めでて花の笑　芳
羽織扱くて寺の気寄　翁
牡丹ささ耕す店をおやすまぬ　風
肴のさけける嵌釣の鵆　跡
秋やうよい川江の何をせし　翁

いかてとおもひし奥州の空　不

昔生し君の幸飲めと注これ　蓮

林そつきけ踏ふ紫の戸　風

窮る冊も訓も八安ふ流の多　芳

風雅仕上し派のみの芳子　菊

幸の中ハ採蟻かひなる旅衣　不

よむ石くれハ佛きらくらく　誠

瑞瑞螢ハ月をとらむしさくこし　浪

倦の蚊刺ぬの夕之膳　蓋

をみ立しるめくなると踏ぬて　菊

見かくれと畔そ網たる　風

生れ来て惚ぐ子の上町幸の来　不

白髪なのしれ初子うれしれ　芳

古義長の師のようさまさと待　誠

香のかくしやまひ花まつる家　蓋

嵯峨やからとまおめく薮の月　園風

うつりを化つ櫂のきさとまの　梅巖

暦よむ人なを里も海くたに　半織

かくう牡丹の名を床めくく　去芳

秋しそ可すつとの上そ取る　良品

扇の角を浅ふす常し　風麦

まそなふ蘇鏡の鶺をとさけ常に　菊

初かみを結ひ特殊の篠
ウ
ちの鶴ふくめて桜も　木白
おくをとめの浜の浦の
伊勢の海よりこれ素襖をあすとて　配力
かくれの宿を賜る古いて　麦風
村人八幡の動ちうてあるて　芽
鶴江門流をうつうち　茶
造りもすそぐの風も甘　砂
身を考給の長をゆし　力
妹うを和漕の生義　風
ふみもちうすの芝蓋　麦
そなしの糸の衣を結ぶ　菊

ゆ
ウ
ちの鶴阪の重　芽
代をの鶴をのわをてくめ　白
肩手持めく供のさくい　新
球を巻一尺を忘里かくれ　風
さを結て大の流をわひ者　麦
蓑紀子志原ものの長ちう　不
女咲すう休の戸の内　芽
塔形のいのこと餅を結ととて　菊
省中八度くかくちすりる　白
三とれうう旅の中笑たまれ　新
ふをひうえ尺う精俗の魚　力
高ふ矢とこれ志原紙けて　白

かうさとあつしや物の袋　秋風
七夕の夢をかしうる隠ふてさ　菊
なうして去りぬきふも月　麦
柿の木此枝ともくこと実を持て　芭
蕉てすきかの紫ゆ　秋
時雨の雲の鶴ひらの蛤使　鶴
小斗の星をつをの村　白
蕉の爪のうこと実くゆつ　秋
松ハ一か　山の祢　風
乞食ーてもおさすき藩すれ　菊
終るしふ迷ふこと心ふ　芭
寺河ちかろし後の松ふくて　力

とくとぬ方此歌　麦
此法を火を林ふひと位　不
なめしう来て鶴の雲を　白
引うつく苔の滝子　芭
月の雲　拭てもふ文　風
月の雲きのみ　新を美　菊
きめるあしを　力

雲千今ゆくや小斗の星のお　百歳
海の寺　ふあのつもの橋　式之
一つのひ鶴の来て鶴松ふて　菊

すゝしさに莇し回廊ちるけし　蕉生
壁の名をはつきかへん草の月　村鼓
縫おし孫の尊の衣手　槐市
ウ若殿のすゝれの中は大なりけ　梅顛
奈良の小袮宜も宿さだめけし　菊
提灯を焼きたてし跡の声　生
残る雨戸をおし明はつき　乙
清しもとをぬく人へ物言ひさ　業
古き名所の家をしへつゝ　歌
まゆの餅をく豚は鉗をかへも　市
壱川くりしらる青山の秋　鼓
手習の衣を借りておきける　菊

瓶子てうくてもすゝしく気　乙
杖突く上総八坊か菊の坊　歌
髪結ふことの中にも人急ぐ　業
二 麦の末て様に小唄を拵へ　鼓
みよし屏風に匿く寐猫子　歌
併て打かさしつゝかり団扇　菊
夜気のことる気風をしてまで　生
ちつしゝくあつさの音は見えて　乙
むかしの名は雑鼓くさい　鼓
柴の室の市は帰りて酒買て　市
仙台の瑞穂の月もまた晩く　乙
稲妻に舟にて米習ふまでしる　鼓

露に消てわ先すのゝ紋　果
子供から侍る虫を吟ひて　翁
千木の内より六寸株札　ゝ
物云の下知の志ほしを除けし　都
暮をまたれハこれ業をとる　翁
鎮みちうふも米の后みれや　ゝ
相手治手も由る瑞岸　市
砂糖の射倚やゆらむくら提て　果
隣手付ろすゝ綻一かさ　技
しゝろ風吹の名のみにいひ捨し　玄介

虎薇の御様なつくみしるま　舟竹
十寄麿を遠来米の市しく　翁
こゝろゆてまた旅ゆいかまみ　介
ふの月雲のものハ山の様　竹
よう見岩細手秋のもみ松し　翁
一株の花ハ物手似しろられ　介
人見るのハ了了寒の後　竹
所花ハ志てまた請をみきけ　翁
右もひらりも嗟出てし　介
てまもる雲よりこの得しきと　竹
尾上手のこる後のつまそぬ　翁
東風のゆくゑ男も口そしき　介

門戸の角を待しのち　松
秋風や木の葉も紅葉を吹ちらす　菊
垂るゝ玉ゆ線香の煙　雪
花きうきの賀の田の赤きうえ　菊
ふりおろれども蛙ゝなる虫　休
玄のりて米、拓の傘の絵のうへ　雪
熨斗を付しこ賀の紅の紋　菊
白粉こゝ代をや耳の嫁の色　休
殊よりも業をきうすする　雪
風ゝ吹ゆ納屋の大のうち仕く　菊
竹を引ちる梅の片ゝ紅　休

自然を為の秋の色を角　露沾
蛙のかゝ子を入る　雪　菊
蓑虫も言ふの為のなるよに　菊
木葉を吹くうよの雨　曾良

ゝ色ゆ菊ちらせ下ん　桃雪
茅屋を言作さ都きて川の流ゝ
すゝの川ゝ流ゆ結ゝ
つのゝ
雨ゝ絶て夢の小路尺うれ　桃雪

[illegible]
夕食をふ鯖の[illegible]月むて　等躬
秋来ぬ[illegible]と布ゐ[illegible]し　菊
[illegible]
[illegible]と表ふれ伝ふ[illegible]ハ[illegible]の
[illegible]と伝へ[illegible]ふ　等躬
萩ゆ[illegible]と又[illegible]ひ[illegible]川[illegible]
市の[illegible]術[illegible]ふ[illegible]　曾良
[illegible]ふ[illegible]笠[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]　菊

田植の[illegible]ふ[illegible]め[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]れ[illegible]

加賀早苗[illegible]て[illegible]食[illegible]む　曾良
いな[illegible]の[illegible]　菊
[illegible]引の[illegible]の青苗[illegible]掛て　等躬

風流寺[illegible]
[illegible]の[illegible]く[illegible]宝[illegible]柳[illegible]　菊
[illegible]ふ[illegible]橋の[illegible]を芝
[illegible]の翁を[illegible]て　風流
[illegible]　曾良

盛住寺[illegible]
[illegible]の[illegible]と南[illegible]川　菊
小家の[illegible]と[illegible]ふ　白雨　桐風

物をうく 梯ハ走方ヲ埋住て 本端

六月十五日 青蓮寺会席

除て入るまゝ川 菊

月をゆるすあるまゝ川の浮橋 令道

思野の秋ゆく色の重ねて 不玉

明もとハ雨ふるまゝ きれ 定連

波ゝの形成仕て市を待 曽良

新手まつる青の油火 任暁

不操姫のこゝろ玉 扇風

ゝまゝれよ切ゝ蛍屋山の重 一 倉党

杉の葉ゝをこゝろ三日月 菊

秋仲ひ朱のうを撃て 不玉

ゆゝ絶ゝ ゝれ 曽良

業柳ゝ ゝれ花を 枕 菊

義のすゝれを 扨ゝ 月 梯雪

姫ゝ ゝれ 秋のいゝを 更也

ゝ ゝめけし 字義の い 曽良

菊を一枝ゝめて

雨やゝの芳ゝ ゝ秋の 小春

ゆゝ ゝ月花ゝ底さし きゝ 菊

初雁山あるかたにはたけしくさ　蕭良
江ちのくさ水のさ魚　小枝

物さを扇引さくさの秋うれ　菊
ゆくさくさ寄手きほひむ　小枝

送る
秋のうれはりえしの笠紅　木因
菊うう寂寞　菊
ゆくくとさをつれもも秋の風　菊
吹猶の笑ゆるゆるゆゆる　之清

元禄三庚午
二月ゝ

ゆくゆくれ笠ゆくゆる桂うれ　菊
古井の雄　笠ゆう　入寿　左木
河芝の清ゆくゆくゆくゆ新ゆ　百策
指さゆ方ゆ身ひつむし　村鼓
梢ゆる陳の柳とかくゆくむ　式之
秀を吹れ風のゆくさる　梅額
俊しくに寺のゆる西ゆ　一桐
世をちゆくといのちゆくゆ　槐市
伴ゆ妹ゆ稔を上ゆ笑ゆ　枝

菊
木
菜
胡
桐
雪
々
菜
木
菊
市
鼓

菊
桐
胡
木
菜
々
鼓
菊
市
桐
木
菜
々
鼓
菊
木

[illegible]

木の[illegible]に汁を鍋に梅のか　菊

西の[illegible]　孫碩

姫人の[illegible]　如水

[illegible]　菊

[illegible]　水

物の[illegible]　水

[illegible]　菊

[illegible]

入西子の酒の[illegible]　碩

[illegible]　水

[illegible]　菊

[illegible]　碩

[illegible]　水

物[illegible]　菊

[illegible]　水

[illegible]　水

[illegible]　菊

[illegible]　水

[illegible]　水

[illegible]　菊

文さ　ほとゝぎす　ちるさくら　ちるも
うつるのそらをいとゝうらゆるら　砂水
慈雲尼と法華ひとり　菊
手束弓紀の一番雪かしく　頑
酒て九しるる　ふらしむ　水
双六の目を取くやて　菊
仮の対仏　砂
中しに去年ハ　水
赤ハ黒ハ里れ　菊
みくれてゆくぬ　頑
自取して　月　水
花すきゆるゝ　菊

只四方　菊の　頑
一貫の　水
醫者の　菊
花咲ハ　水
地て　頑

本のまに汁と　菊
ゆる　風麦
蝶蜂を　良弘
まよ　古夢
ゆ　霄洞

槙のあらしの荻の枝の実　翁
ウ 石榴の緒団子たゞれ昔の香　麦
馬よられしうる蝶の手綱ふ　示
赤白の走りしけやとおもふらむ　芬
木幡ゆくりの雲のタくれ　麦
黄尾を犬なしひと人のうちひぶて　翁
井戸の志きなるいふき切し　洞
涼しさの緑なるし身をおん　示
むしろをたてにちるる蔭さる　翁
扇しみるゝをとのしく蚊の尾をすて　麦
秋ゑのたしる船母子の去勿　芬
ぢんちう比紅つけちらす花さく　半残

二 二日ゑむあつけ二日酔さけ　三 蘭
鴻窓のうきうに掃をひろふすゝ花　翁
すけおくせ以の言ふさけ娶　示
あのふ袂の蝙蝠萩すり楊のすし　洞
ひよくのきぬすり墨うつくし　巻
蝶の家を飼豪さくハ癡く惡　示
まさし新しふ麦うつときく　麦
浄佛ゑつのくるはなり前しくて　芬
涼やきしらすそれさうつ　諦
ひらアまの志をを家入るまきかう　麦
葛子様のうち火の峯　翁
夕身を扇子結うく秋の風　巻

[illegible]人ハらの[illegible]
[illegible]の[illegible]の中と[illegible]をつけし　芳
[illegible]んゝ和ようけもい　洞
[illegible]入る二[illegible]の[illegible]を[illegible]　菊
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　不
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　麦
[illegible]　芳

伊賀の山中にて

[illegible]や[illegible]のさうに[illegible]　菊
[illegible]ハ風[illegible]　し　孝[illegible]
[illegible]　[illegible]　芳

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　良不
[illegible]の七ツ起[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　菊
ひさごの[illegible]を付[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　不
秋風に枯の[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　芳
小傳の[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　菊
安[illegible]と矢洲の[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]賀の[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]の男[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　芳
人[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　不
[illegible]州の[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　菊
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　不

芳

翁

珠

不

芳

羅

珠

芳

翁

珠

芳

翁

珠

不

芳

翁

珠

不

芳

翁

珠

芳

不

せをてゝ　さ笠の雪　寄香
初月の新米築てうひて　尚白
石ゝいとれ　ひくくし　自咲
松の本を秋風さそふ　通雪
雑をやめし　琴の糸　松洞
うゝれしう　ゆ　玉
矢数ゝ　鶴のようう　遠くさ　菊
古塚ゝ　古いのみを　拾ゝう　咲
柿の葉　ゝう　童かし　玉
さゝ　ゝぬさむ　よゝ　宣秀
うき　ゝれ　の　白
風　ふゝ　ゝ　二ゝ　洞

材ゝ　秋ゝ　蕎笠の雪　江山
いゝ　ゝ　対し　社おれ　菊
よこ　ゝれ　分の　ゝ　咲
花ゝ　ゝ　秋八　ゝ　白
雨ゝ　紀ゝ　ゝ　ゝ　玉
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　玉
され　ゝ　ゝ　ゝ　山
柳火　ゝ　ゝ　ゝ　玉
出ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　宜江
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　一記
おゝ　ゝ　ゝ　ゝ　菊
中の秋　ゝ　ゝ　ゝ　玉

三陸ちかく蝦夷を踏をる
うき人をわたしそうの家
大事事とおもひたるに女
一陸や二条ゆくらの小細道
実のる告こそいとの山風
こうしとやをとやまをてあるの
畜を家ふて陽の嘆うち
孫四ハ伯父の新うへ尺家
教の妹うをを考て来る
撰ふもむ妻ものを禁じ
うををうをうの和き

白
秀
湘
白
江
重
兵
就
菊

市中ハ物の匂ひ多の有
器しとと門しの春
二番茶も器ふ稚ふ如て
所うううくうを一枝
此簡ハ紙も尺ふに千自角
只古拍子ふ
茅むうを姓ふ
義の貴ふに物ゆうけす
色んの春ハ和のはむ時
能雪の七尾の角ハ仕うき
魚の骨ふ雪ふの志を尺ふ

九北
菊
玄果
北
菊
末
北
菊
末
北
菊

待人入し小御門の鎰　来
立かゝり屏風を倒す女子ども　兆
湯殿は竹の簀子侘しき　蕉
茴香の実を吹落す夕嵐　来
僧やゝさむく寺にかへるか　兆
猿引の猿と世を経る秋の月　蕉
年に一斗の地子はかる也　来
二 五六本生木つけたる潴　兆
足袋ふみよごす黒ぼこの道　蕉
追たてゝ早き御馬の刀持　来
丁稚が荷ふ水こぼしたり　兆
戸障子もむしろがこひの売屋敷　蕉

てんじやうまもりいつか色づく　来
こそこそと草鞋を作る月夜ざし　兆
蚤をふるひに起し初秋　蕉
そのまゝにころび落たる升落　来
ゆがみて蓋のあはぬ半櫃　兆
草庵に暫く居ては打やぶり　蕉
いのち嬉しき撰集のさた　来
三 さまざまに品かはりたる恋をして　兆
浮世の果は皆小町なり　蕉
なに故ぞ粥すするにも涙ぐみ　来
御留守となれば広き板敷　兆
手のひらに虱這はする花のかげ　蕉

かなしうとうめぬ屋のわふるさ　末

原け橋の雫　やみうきしられ　九兆
酒うまうして青霧すると　秋　菊
新しみ雲をうしろ月影　野水
ちらしてしらもきし十のさらつき　玄来
る代経て物をさしかりて　菊
しうひとの言ひ合ひ雲　秋
宗ウして肌をうけるまの弱　末
磨那ら生粉手やるかきる　水
みめしてかすすこしハ風ある　秋

地の口雲をうけて家味よ　菊
物思ひしるかわまれて体むる　水
むしひきはしき廃ちの文　末
金殿と人をいたの雲　菊
明月をみの雲しの月　秋
町角の秋をふけぬくの五布　末
何を尺うまも雲さうし　水
花とちる名ハ函谷ら名きさ　菊
木名の酢豆子まもられて　秋
二　物ゆやし山ふけふ四十雀　水
宗ます家の梅をうける　末
名去の蒸ふ米おろし　秋

旅の[illegible]先こゝ[illegible]
すきまし女の[illegible]
[illegible]おもしろ[illegible]
[illegible]
人[illegible]
[illegible]
又[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

菊東水菊東水菊東水

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

紀
東
水

秋立て千瓜[illegible]
[illegible]
早稲[illegible]
人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

及扇

弥頃之道
昌房
正秀
探志
頃

[illegible]

非り惜る娘の心地き
うけて至合昭の事ゝ止れ
机をしと情変はめう
内の家風ゝ世話きを屠蘇
業をゝ苏ゝと寄の庭人
上張て経ぬまむ和の
ね和ゝむ和の
としと標板ぬゝもさゝ
ゝひつゝれゝ
ゝらゝむ姫川ゝゝ木寄きよ

[illegible]

胡椒掛の[illegible]
行て彩起賀ゝ五六
業をゝやゝむゝひもの味
母親の侍て尺ゝ嫁入業
ゝゝゝゝむる且敢山伏
経ゝ店を持て赤和の門掛
麦を恵麦ゝ畑のかゝ
絞引の写と屠ゝ経し
香の小句ゝ去牛生むる
ゝんとかゝひめ侍ゝ産ゝ
ゝゝを告る秋のひよゝ
山椒の木孫をつく風の寄

石地の坂を帰るや　物　頃　毛
情作る聲の大工　嘶　く　肩
のくるだを踏ます　葵の僧上　秀
野の長を素しもを粗屋け　頃
かくしとまるまのゆけかの

自天すく世千笑を祈られし　菊
庭の柳の紫るの刈るる能　尚白
火桶めるを盗のを除を見すて
お当るの　吉む枝　打　米　菊
尾沢のめるるる塩小鯛

百姓を見るる川の上　白
宇賓とかめるる人家ふ等の雀
南のくまるる屋敷寂まぬ　菊
一切しらふる能し絡る市の等　白
そしいるる能　飯作るむ　菊
いそうると法うのまる　酒宿　白
秋ふとふるれてるる　絞つ　菊
月のお　おるえてるひふ屋のまの　白
枯枝かるる和　秋するる計　菊
信農る蚊八を秋る能て　白
大工の　枝を　といの　通　菊
三ヘの　精ふ　能さ　白

八さうよう　菊
二百四つ　白
折のうつ　菊
商人い　白
物よく　菊
蒜の　白
笑　菊
塊の　白
言　菊
嘉　白
隨分　菊
字　白

さしも　白
あり　菊
小さ　白
うま　い
よく　菊
宣　菊
打　白

白菊　菊
八ようさ　之道
四つ　珠碩

かり掛へしらかしこの宗　菊
河風ふく年の代のうらしと　芭
麦のふしねをもくる夫　頃
齋さて一志き帰る鶴を　菊
頃おうや忘年の点　芭
と鶴の帯を美しく狐とたべて　頃
久しき弧の物おかしき　菊
山ちまの沖の鳴ちる　芭
かふと答ふ　頃
月ふけて一年の光をかしけて　菊
鋪を鶴を詩さて　芭
物ちまも帰ふ年の　頃

又と保生の安倍の奥　菊
時しを花も咲て新　芭
屋宗わの一ちを在ふく　頃

安しとむてしさよの内の雲　菊
舟をふて宜こしす　風秀
ひめもし咲も掛ぬ萩の葉子　路通
留ふけ山さきのさは　丈草
ちしとねもし直ふ竹の孤　惟然
味ふ四ふ立イ　梅鶴
系まのよ別ふ孫のてふ　正則

石の手水の音ばかりよむ　楚江
鶯鳴の春を見うけてきるひの　勝重
ふすま低くしらべ時雨うち　葦香
拾ふ木を物ふる伝のおつたさ　兎苓
渋を見てうつ舎の大作　正秀
月新千万別墨うち白の上　別
只ちらしときうしすの　重民
柳こそ秋はうつ秋をあらうと　重古
繁の白髪をうち尺はうち　翁
手しのもうふひ友の数　苓
きしうなときのあまのは　別
二寸の栄のこいハ苓を火前　鵜

さしやくとものうき春し
ふけきつてみきうちハ戸を出し　江
以ちうの山を出てうてはるる　苓
ほうきうえ人ハうのふ行きうのよ　兎
せ先てうはしも柱箸放さす　然
風止さふうきまし北わ舟　秀
只一一おとしのむ陸ものの　通
はしハ古えの枝の巧能張り　繁葉
月尺をゆしやうし松立　苓
秋風手網の岩焼石の竈　苓
棄ひる藻の夕さひき　鵜
文能ふうハこうさ拾弱し　通

分ていとゝ丈の反ゝ　重成
長橋ゝ沼ゝ迷をおくるゝき　柳流
時ゝ時ゝて秋ゝ　秀
職人の不ゝ行ゝ　結五
南おもゝて笑ゝむ蓮　玉

寄の月も飽ぬ物哉ゝ　去来
一吹風ゝ本紫ゝ　翁
仮引の新ゝ　九兆
狸を怖す藻ゝ川ゝて　史邦
まゝ戸ゝ苫ゝ宵の月　翁

人ゝもゝ紅ゝ色物の梨　東
ゝふくゝ蔓絡おのゝく秋ゝて　邦
ゝ紅ゝゝ蓮ゝゝやゝの実　紀
何ゝも在ゝ中ゝ　し
里ゝ見ゝて生ゝ　東
ゝゝゝ寺ゝ寺ゝ　翁
芙蓉ゝ花ゝ　紀
吸物ゝ中ゝ　秋
三里ゝ中ゝ　翁
ゝゝゝ屋ゝ　東
さゝ本ゝ　秋
若ゝゝ　紀

ひとり立ちしたる新の板之　末紙
二対ちの二すの物を咲きをむ　紙
ものとなりて家の面の小路　鈔
火ともしに見れば雪の降るなり　末
降りてきしくこれ見きまひう　菊
痩骨の雪起き立ちぶる姿　鈔
陳を一つうてまひむこむ　紙
うぶ人を拙歌堪ぶ潜きん　菊
そやそこうれの刀さしおす　末
やすけ様て腰をかむちし　紙
おもひ切ふる死ぶるひよ　鈔
寒天ふ雪の身の新ちけ　末

泡の如秋の此良の砂雲　菊
家の戸や黄麦ぬもれて家を後　鈔
布子笑ふふ地のみ花　紙
押合て寒ハ又ふ仮枕　菊
ものらのもれまさ春ぶ出　末
一かすひ歌仏ら豆の花　紙
枕枕の古葉ふ本牛もを之　鈔

引起す家のすきを和新の有　文草
柳の黄葉をさらす横仏　支考
罠ふふ理の雲をさすすし　菊

殘山のけう樵の時　史邦
霜しらす松の根ばかりの金の面　吉来
殘まばらくさく稀に金の殘　野童
人の只取残しの花もひ　秀
こゝろひも舟をゆり起す音　芝
山百合の蕾のさゝる枝つき　秋
尾張をうつす本宮の大松　菊
破殘る蓮殘ひらかぬうき　童
のけてうに咲る蓮の火　本
蕈をうゑまく人を見る面　芝
陽の射賀る音の有　秀
示筋を初て今まる秋の風　菊

出の浦人よ蓮をこゝろ　秋
居丈を松ゐるうゝ　本
舟ふゝ松本の表　童
小の方ゐ狭さうひる殘る蓮　秀
鮫のかゝるよ白ゝ手　芝
酒入のちひゝむ破氣ふまれ　秋
物のうけあむ行李　菊
う紙しまつゝ蕈方殘し　童
絲おとゝうゝ直ゝ　本
投きし相の松もゝに　芝
たゝのゝ殘て蕈ふす　秀
かけなひよゝて通ゝ殘ゝむ　菊

[illegible]

[illegible]

[illegible]

書は本宮を絶す勝こと
頭巾をかしてし長吏の二人歩
かさけしこれの袖を引さく
冊子は紫書を以て箱
こと本の行のみ宜
今川の武威を藉て
法しまをすること吏の不屈む
張義を五百文米の強
其白の者こと多くかさふる
門端の塵掃しもし火を燃す
死をこうまれこと紅父の兵
身おちの潰れ其の墓の陰

内裏の帳を入し牛の子
萩垣の川をさうひる糸の末
巻手まのいふ秋を来こう
傘取やこ作ものの和
桃灯さこく切の牡丹
塀かこの庭に店の先
把て音味よ取の扇
ひこまれ乞うこう巣鶴
巻手ものの雲の手物
花咲て行端の鼎
他の玉まし九ゆこ屋む

末 篇 浮
浮 末
末 篇 浮
浮 末
篇 浮

[illegible]国京都九無り

[illegible]を友[illegible]手[illegible]

[illegible]氏の併物納[illegible]　翁

[illegible]の[illegible]家[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]人

[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]

おさえつゝ雲近くうつ
新なる雲を作りを引き
葉の里おおてゝ色しき
首をうるうるくるおのけ彩の
理中に於ける孫のうるけ
月河くゝ南ゝめるゝ石地義
安をあつ作業牛牧をふ
義をるを世をあ家達て
後の翁をゝ
作くをちひをを能ぬる
ゐをとの形の風をとけ
出白をを尺をむ花書

末　釣
秋　
石　雲
末　
外　
九

かををとをゆくゝ雲の羽をひ　釣

いろくゝの色をやきつゝし書の字　孫頃
うるれて樓の月をさゝある　菊
婚姻の出家つをさゝ　路通
花やゝに対面して弱れひの本宝　園女
ゆふを樓をとゝ義ゝ　菊
昔の戸やゝ書て花の海　菊
蛾をゝのゝ水梅の角　乙州

月代や緑そまを直す宵の雨　菊

萩さくけさるひとさり秋　四季

桐桂や鞠のうつれそゆる宗　弥項

秋色くれそ風そ来ふ門　之道

ふ物そ汐入仲宵の荷を付て　菊

赤人もを一しの酒樽蛙　弥項

古道くさふるの根　菊

元禄四辛未

氏仲のそ尺ふ宵をまそふふ

宮のれふめそひふく年且　幾香

ゆの猫そ地ふ猫通ふ時発て　菊

ゆふそいふあ糸瓜のかふくなひ　此筋

仁といふれそ渡るさふ寒　子川

算入そ蕨宵ふ松のふ為を望て　桃葉

ふそ古宵の移ふ奥筋　菊

弧ふしき豪之付て豊ゆくむ　筋

形くゆのしふそふ雑のま　通

代里そ物伝くふる寿はふ　菊

餅屋をくはしく問ふの図　兵川
はるゝと梅屋敷の家の言　節
一もをのくさ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
あ　ゝ　ハ塩　ゝ　ゝ　ゝ　通
乳　ゝ　ゝ　ハ　ゝ　ゝ　ゝ　菊
就　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　川
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　通
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　菊
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　節
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　兵
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　川
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　通

人のあるをけをはるる楽もなく　菊
かゝるたし萩の秋の色しるを　節
地袋さうす本芋の栗の実　通
身の加寿をさうつき指ぬよ　菊
柄ゝゝ舟の　ゝ　ゝ　ゝ　兵
客人のをれぬ　ゝ　ゝ　ゝ　川
ゝゝゝゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　菊
餅をしゝをけ　ゝ　ゝ　ゝ　通
焼の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　川
ゝけ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　節
赤ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　通
花さけ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　菊

うらひすゝ　おくふかきこちの家　兼

梅の花の業やうらの梅のとろけ　菊

笠ぬぎ　ゆくこゝろ　一茶　さきのゆけ　乙州

雪の庭　影や山田を　杉法師　ゆれや　孫頑

走るとゝいふふこゝろ　能平　ふ　素男

片隅手　雲首の　えて　雪の月　州

二月の　実ハこゝ　れこゝる　秋　菊

放ウ　やう　鶯の　紙　そこ　きこ　男

綿の　紫の　ひの　ちこ　ゆる　頑

貴人の　けし　めこ　こる　新康山　菊

田義　訪うと　時分　八角　紙　州

和の　刈の　箕ま　ま　小西　分　頑

すみ　きる　松の　新　ゝ　芳

萩の　乱す　きの　乱　よ　ゝ　州

寂こ　ゝる　百　長　ゝ　一　春　新月

惜千　ま　ゝ　ゝ　む　秋の月　凡兆

吹さ　ゝ　す　ゝ　ぬ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　州

捻の　梅ま　ま　す　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　玄来

原ま　ゝ　ま　ま　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　凡兆

元禄七　梅ゝ　ゝ　ゝ　む　ゝ　ゝ　ひ　ゝ　貫良

塚を入れば杉嵯山
掃ふまで清る雫やからまむ　路通
石のうへ苔こそ年を重ねけれ
雨うつる墓の先を清水して　山
ぬきうつ牡丹　帰る芋畑　通
蝶のまう結ぶ秋の風　菊
蕎麦　深谷　寂　蕎麦の花もすけ　良
ゆちきれく山茶の根　山
雪の花かる家の根　良
振ひけく扶ひてくれぬ犬の声　通
聟の利発を河ふいろをん
ら化うの風の幸こそ仕まうう　良

角もらすひとたん部屋の市　菊
物云を砧の明るしまうる　通
ろう稲穂を見ハ知れ田や　菊
茅の石家のうちにはをうと　通
古家の地はまを持ぬ　良
俳諧　物言ふ言ふ言の雪　山
ものれてしてる悪水の孔　良
形代を生膳若ふす法連の間　菊
こはうも果はて家に家根　通
狩暮を云ふうう不破の関　良
柱おとれしる田の中は小田　山
かとくきしる痩てやからはつくん　通

てら物ものいうき世一人　菊山
ひとをいとんとまれハとまうて
ものして門ゐ世の戸の御簾　菊良
物ゑ月をさす御のをのしき　谷の　東通
火を焚ハ岩の洞も春ゐ　良
玉を求ゑ　秋明　孔　菊
おとろふる父の白髪を書うけて　通
物ゑのをるる学の和　物　山
入をて物ゑ芦物のをく　菊
何ゐ月やゐきのしく　山

蛙ふく物ゑ和秋の月義ゐ　野童
蔦もうく吹かゐひしの蛙　菊
小物をさいる蛙茶かけ物て　路通
弱しを来る魚の　物　史邦
一面ゐみをれくくもる弱月ゐ　文草
出をるしと宵中ものすゐ　通
ウ
ものいをれぬ人を思ひゐる　菊
ものをひをもる　仲　重
物ゑのをゐをうて尾ける　軟
ゑ拾へる案の小　青　学
夕雪を宿笹を養して立物　通

泥まみれなる女のさま能
石佛いつきのけめるうう　菊童
牛の骨にて牛ゆゑ　秋通
海の法かをくなけて破れ
室の八畳にひつ　菊童
みちはくハもとの有のさま　秋通
唖の去似するこちの黄色　菊童
餅屋の友をほうる者の角　秋通
糸小ちうにさもる老婆　菊童
物ハ絵そ葉むく　菊童
疹して　秋通
行見て拾ひ　菊童
行見て拾ひ　秋通
ゆうゆくと　菊童
似物なくまつ　秋通
畑の中　菊童
屋れ外の無和　秋通
松　菊童
やさしけるまかをあけさ　秋通
法蓮の和面の美ふさひ　秋通
外ゆ　菊童
ゆうの中　菊童
代角も行　秋通
飯菊ひく黄室の上　秋通
佛まかの黄色　秋通

業を修むる数はしるし　　熟華

佛師の此清を敬ふや　　出

月さしうつる意のうつ　　去

敬の出家を業を尊ぶ　　正義

を拭ふ筆の走りのうつ　　号方

度義の学後を人の赤きさ　　盤子

又焦しうつる意の様　　翁

霧屋の頭　拭ふ　　及肩

うつるをさの手のうつるの弱　　楚に

山作の伊賀の上敬の手ふして　　志

義

狂言の杜業を弱うつる　　翁

出来合の物拭翁和尚　　子

小手　飛うつるは頃の上　　方

名自手かうつる　　義

新酒の破のおくうつ　　に

かうつるをけをハ家とさ　　翁

手のふうふとしさふくるみ　　志

吹むのくれるのおりうつ　　肩

かうつる手立る音の手色　　方

帰る信物の一くみ歩きさ　　義

り立手うつる　　翁の旅

又うつる立うつる物　　佛　　子

仁

[illegible] 菊房

[illegible] 田の松く 秀房

庵の松[illegible] 志

[illegible] 月を [illegible] 吟松

[illegible] 菊 子

[illegible] 秀房

[illegible] 菊

[illegible] 子

[illegible] 肩

[illegible] 江房

海[illegible] 菊

牛[illegible] 秋の風 菊

江 植の上に蔵菊 [illegible] 弼通

[illegible] 史邦

扇四五本 [illegible] 文尊

[illegible] 吉来

[illegible] 野童

[illegible] 正秀

逝りの雲をあむ哉さ　翁
休るを療るの点ようく　通
俳とは真の場いふせば　釣
生平を素朴を強をすう気さ　芋
いりを家が枯の義の云枝　東
秋を丁又一三きをるを汁　童
蕎縁をくく俳歩の角　秀
ふるの初を寒をるれ　翁
寒をつをを丁うをせをゆく　通
寒時を初を初を義ぬ義のいる　釣
畑をを人をを芋き　芋
人情芋俳ふををうう　東

蕎角をををうを俳　童
うを紀をを辻丹を俳を俳をれし　秀
俗賀寒の俳俳をきぬし　翁
蕎を丁を俳孫天ゆを蕎酒　通
角をを吸ハむう注を　釣
芋をを寒寒を寒を俳俳　芋
吸石の蛛の太敷ををむを　東
大をを丁同し中形船市　童
ちをを仙をぬ孫をふを　秀
田ををれて女の中の寒酒　翁
義俳ををぬ寒の俳の月　通
月ひをををくを秋義　釣

又さいのかの蘭ゆいもの　芋東童

手の特物尺くしまふ開しさ

油ゆけきぬ尾ハ花をくく

くくひまの毛うえ紙と言ふて　義

物ハ見れまけてふく　執筆

くくハき結の種蓋の新ゆ　路通

花ちちゆ紙す油ゆの水　昌房

きく賀の中くく祐くちて先て　菊

蝙蝠の火をもくふ夕月　正秀

ものまれて紅杏の居紫かち長す　野径

すくくて氣をきくく物のる　乙州

蓮ゆちちゆ嘶ふ　画好

ふハ雪くくくく来し悔くし　弥頂

くを夏つふまをと紙とハきちふ　盤子

を保くく入　里東

回の中をいくゆも野ゆちふい　探志

芝花の札の米ゆゆ先く　静力

沙羅くくふ自ゆ松の花　秀

松宮くくふむる帯の紙い　通

月新ゆ二ゆの物をつふ物て　ふ

蕎麦の自ゆのむる下後　東

ゆ芝ゆ海ふの花ちさくし　丸

[illegible]る菊水の旗子
[illegible]の勝ちふらん[illegible]秀
[illegible]上[illegible]ひけて宮行 頃
恨[illegible]る義[illegible]を伴して[illegible]州
くもれと[illegible]しもの後 通
[illegible]の[illegible]の位 菊
[illegible]の[illegible]は迴廊 秀
[illegible]の寄[illegible]の地を[illegible] 子
[illegible]れ神[illegible]を帰[illegible]す出 州
[illegible]と[illegible]いふけ[illegible]跪き 頃
白[illegible]し[illegible]の合[illegible]め 菊
[illegible]の[illegible]を組[illegible] 西

[illegible]の[illegible]伸[illegible]仲の[illegible] 徑
[illegible]八[illegible]史文選[illegible]し 通
[illegible]保[illegible]屋の[illegible]れ 力
[illegible]を[illegible]し 分
[illegible]屋[illegible]む[illegible]の 子
内書[illegible]ハ[illegible]を[illegible]の船 頃
[illegible]の[illegible]入[illegible]やり[illegible] 徑

元祿四年の秋[illegible]菊と
[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]ハ[illegible]の[illegible]の[illegible]の 斜巖
[illegible]の[illegible]の[illegible] 如行

一事の仕るハ麦を打さかりて　菊
かゝる　秋　毋をさ　しよりし　荊口
寺を建てらゝ　射出るつゝ　文鳥
山荘　花をさけ　小坊を　此筋
秋風に　揚け　後き　長いろを　左柳
夢の　上を　を　雞　ふも　悠風
極楽の　岩　ゆ　る　蓮の　縁　彩
念仏の　寺の　鶏　ゆ　ゆる　殘香
わうれんと　法　小　鶏　ゆ　千川
おさ　ふ　よ　ゆ　ゆ　ゆ　菊
れく　仕　い　角　ゆ　ゆ　口
米つ　ま　し　物　ひ　ゆ　岸

籟おろす八雲を　籟
ゆ　ゆ　け　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　菊
秋も　の　ふ　も　ゆ　を　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

扇車　游水　桃先　桃浪　桃鯉　雪丸　雲翁　水彦　くく先

宿初てもくひ集と絵を押さ
仰くくひやくく鼻あってやる
あれ浪のむ絵さそそ絵うけさ
蓑いくちめら仰山そ出さ
久浪そ見こさうあくくをねて
桜の方ともさくくぬ紋
花まきあ坊主のおくひ
都絵れくるくやくの月
あのきてのおされて絵る表し
茅くくてくくふも絵を
袁もそうまも化粧のくくれ
二月の鯉のくつけをふ以

おまくくあ蓑の中のこけ絵
小鯛と鯛とくれる仲蓑くく
黒崎の演ハ称此時逢て
白そあくくの面の絵のくし
絵化側くけあくく見を蓑む
杉蓑の埃此みえる鶴茅
絵そ蓑を茅くけくる蓑の供
蓑埃くみくくふも以流
みくと生配蓑の蓑さ発て
院と白蓑をくいあひく
新くそ蓑絵くくさ松の月
仮广の絵ハこいるて持さて

蓑 蝶 後 丸 翁 蓑 後 丸 翁

[illegible]の春八月[illegible]新海を走行[illegible]
[illegible]時[illegible]以[illegible]門の外[illegible]
[illegible]千[illegible]遠[illegible]一対面
[illegible]のとてのんて[illegible]小悴
[illegible]咲[illegible]千物[illegible]のさらを指[illegible]
[illegible]を殺て[illegible]紀[illegible]の松

之乃
[illegible]
[illegible]
[illegible]

花賣て物を二擧てもえ上り
きゝもいくぬ火鉢の白菊　桃雄
淋と塔こりうるをうみ　水
腹ゑのためる味噌の出物　菊
ゑをとゝ手ゝ筆とゑをける　之
明の杉を思ひ取はなる　重
海邪し陽ら流れ埼くゆく　坡
秋風濃し義郎の笠　先
菊麦畑の墓ゆくゝ　鯉
小つゝのゆくきゑしの月　丸
ゑ月しの恵ハを力見ゑゑれ見　青
乞食とゑゝて夫婦かゝふ　菊

さしむける宵かのをを歩ひ　乃
きれゝる法を柳ゝ立ゝ　之
素湯ゝつおゝ尺うゝ呼ゝ　寺
行を抜ひゑのゝ歩を寝精　坡
発ゝとゝ向の方れ出ゝ　重
橋の寄ゝ　ひゝる石鉢　水
念佛ゝすゝめゝる蛙の友　先
まゝいく度の保生めし段　蹄

菊の仕度をおく市式て赴き
まゝと遊田ゝ
夕仙やゝゝ降るのゝ　菊

炭の火をすこしかきたてゝ
雪の月舟を漕ぎ引かへて
又こゝにしばらくとゞまりぬる事
初霜結ぶまでのおもひ
新蕎刈こなたちかひ
姥の出いでゝ月をまつ雨もふれて
まゝ〳〵一ふしの物ゝ哀
物ゝ哀を取てはしの間を笑し
こゝろ入れぬ人ゝ
蓑笠をあつる三笠山
みな宜しく如ゝ

松人
文彦
湘水
弁三
桃林
馬嘶
野幽
利雨
越人
桐葉
桃青

元禄三年三月廿七日伊賀上野風瀑
亭にて

本の一ひらけも餘ちさゝ〳〵れ　菊
望ある人ゝ
樂地をおもふ
ゝの白ひをはれて　けふ
芋殿ゝのこゝろ
物の涙す　蕉
石壇の絶間ゝ
白ゝゝれゝる
松青の
ゝ月
ゝ月の
ゝ月の

風瀑
良品
古芳
半殘
菊瀑
不
芳
珍

菊
瀑
不
菊
砂
芳
瀑
不
菊
芳

砂
芳
菊
瀑
不
菊
瀑
芳
砂
不
芳

[illegible]

石菖　さく〳〵国を出しめる　澤和

[illegible]　おくの山奥　菊

[illegible]　[illegible]　珍

[illegible]　[illegible]　芳

[illegible]　[illegible]　澤

以上四十句

元禄庚午の春　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　[illegible]　菊

[illegible]　[illegible]　句空

人見の[illegible]　[illegible]　去来

芽[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　丈草

[illegible]　[illegible]　菊

蝸牛[illegible]　[illegible]　去来

人の[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　

湖水より出る物ゝ姿の色　菊

流れてゆくとる人　文草

京よりくだる文ゝ　許亡

松くゝ庭もゝ朱の梢ゝ　霞川

小ゝそよゝくみの出　菊

夢ゝ流やゝ浪て来もみち　菊

一筋ゝ引ゝ張笠の雫　李由

本ゝ所ゝ見ゝ所ゝ高ゝ人一ゝ雫　規外

四ゝ辺ゝの外面　雪　月　菊

物陰ゝ物ゝ秋ゝ業出　菊

ゝ八ゝ日ゝ月ゝ一ゝ日ゝ　如行